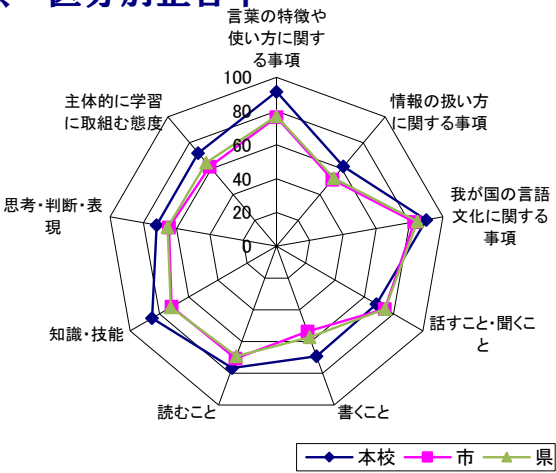


宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	91.5	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	61.7	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	90.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	68.3	74.1	74.2
	書くこと	69.2	53.7	57.2
	読むこと	76.7	70.7	69.2
観点	知識・技能	85.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	72.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	72.0	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする問題は、正答率が100%のものも多くあり、よくできている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は県平均を上回っているものの60%と低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習で漢字の問題に取り組ませたり適切な課題を出したりして漢字の定着を図る。 ・簡単な内容を2つに分け、接続詞に気を付けさせながら文を書かせるなどし、段落の意味を理解させる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○国語辞典の使い方の問題の正答率は80%と高かった。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題は、55%と県の平均と同等だった。	・段落の中心となる語や文を見付け、簡単にまとめる活動を多く取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○漢字のへんやつくりの問題の正答率は90%と高かった。	・国語辞典や漢和事典を手元に置き、すぐに調べられるようにしたり、付箋を貼り調べることに意欲付けを図ったりする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市・県の平均を大きく下回っている。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す問題の正答率は75%と県の正答率とほぼ同じであった。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は60%、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率は70%と低かった。	・「聞き方のあいうえお」を徹底するとともに、普段の授業から児童一人一人が話す機会を確保する。また、友達が発表する時には発表のよさを見付けながら聞いたり、聞く視点を明確にしてから聞かせたりするように指導する。 ・全校スピーチの場をよい機会ととらえ、例示の示し方や感情を表現する言葉の工夫など、相手に伝わる話し方について指導を継続する。
書くこと	平均正答率は市・県の平均を大きく上回っている。 ○目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする問題の正答率は70%、自分の考えを明確にして文章を書く問題の正答率も90%と県の正答率と比べて高かった。 ●指定された長さで文を書く問題の正答率は県の平均と同等だった。	・一人一人書く時間を十分に確保するとともに、字数を指定して書く問題に多く取り組ませるようにする。 ・内容を適確に表す文章表現に慣れさせるとともに、接続詞や副詞など、文をつないだり豊かにする技能を用いたりして、指導を継続する。
読むこと	平均正答率は市・県の平均を大きく下回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題の正答率は95%と高かった。 ●叙述を基に文章の内容を捉える問題は80%と県の平均と同等だった。	・その言葉が何を指しているのか明確にしなが文章を読ませるとともに、文章のまとまりに小見出しを付けることで、より段落の内容を理解させる。